

錯体の命名法に関する補遺

錯体の命名法（上巻8章，下巻19，20章ほか）に関して，“無機化学命名法 IUPAC 2005 年勧告”によるおもな変更点を以下に示す。

1. 配位化合物の化学式中の記号の順序： 化学式では中心金属原子を先頭に置き，つづいて配位子の記号（化学式や略号）をアルファベット順に並べる．このとき，配位子がイオンであるか中性分子であるかは区別しない．

2. 配位子の名称の変更： ハロゲン化物イオンなどが配位子となる錯体の名称が変更されている．たとえば， F^- が配位子である場合，従来はfluoro（フルオロ）と呼んだが，2005年勧告ではフッ化物イオンを意味するfluorideの最後のeをoに変え，fluorido（フルオリド）と命名することとしている．名称が変更された主な配位子を以下に列挙する．

fluorido （フルオリド）

chlorido （クロリド）

bromido （ブロミド）

iodido （ヨージド）

oxido （オキシド）

hydroxido （ヒドロキシド）

peroxido （ペルオキシド）

cyanido （シアニド）

3. 両座配位子の配位原子の明示（ κ 方式）： 両座配位子が結合異性を示す場合，配位する原子の元素記号を斜体で表し，その前にギリシャ文字の κ を付けて配位子を表現する．これをカップ方式という．以下に例を挙げる．

NO_2^-

N原子で配位する場合：ニトリト- κN

O原子で配位する場合：ニトリト- κO

NCS^-

N原子で配位する場合：チオシアナト- κN

S原子で配位する場合：チオシアナト- κS